■金森長近　　中年過ぎて信長の最側近となり，平和主義で長寿を保ち，秀吉，家康からも敬され，飛騨高山藩初代藩主に至った。
かなもりながちか
・・・・・・1524＝　　_美濃守護土岐氏の庶流定近の次男に生まれる。諱は可近，通称は五郎八。
生地や母は定かではないが，登場後の活動から，父が，土岐氏の内紛で，逃亡した際，いわゆる山家衆の女性と結婚し，長男政近に続いて誕生し，父の母(祖母)が真宗の信徒であった可能性が高いようだ。
・・・・・・1527＝ 3歳：_父が，土岐家を捨て，真宗の寺内町として著名な近江国野洲郡金ヶ森へと移住，金森采女と称する。
・・・・・・1533＝ 9歳：
・・・・・・1534＝10歳：この年，織田信秀に三男吉法師信長が誕生，長男・次男が庶子だったので，嫡流になる。
_真宗に親しみ，山家衆に支えれて，復活をめざす父から，文武の教育を受けて，俊秀ぶりが露わになり，
武田信玄登場1541＝17歳：父に連れられ_金森可近と名乗って，尾張国の織田信秀に謁見するや，見込まれて，信長の養育係にされ，
今川義元登場1542＝18歳：
鉄砲伝来・・1543＝19歳：
_強烈な個性のため，嫡流ながら，織田家のなかで浮いているいる信長と，兄や友のような存在になる。
勘合船終・・1547＝23歳：_人質として織田家に来た松平竹千代(徳川家康)に，優しく接して，付け人として来た竹千代の叔母お福と結婚するに至り，のちに家康から優遇されることになる。
ザビエル来日1549＝25歳：
織田信長登場1551＝27歳：信長の父信秀が病死。
・・・・・・1554＝30歳：30も年下の弟が誕生，のちに「醒睡笑」を編して，落語の祖になった安楽庵策伝である。
・・・・・・1556＝32歳：織田家で，信長を廃して，同母弟信行を嫡流に据えようとする動きが起こるも，
・・・・・・1557＝33歳：信行の筆頭家老柴田勝家が裏切って，信長に密告した際，すでに，山家衆の情報網が働いていたらしく，
・・・・・・1558＝34歳：妾との間に男子が誕生，長屋家に預けられて長屋喜蔵となり，後に，養子に迎えることになる。
大友府内開港1559＝35歳：信長が初めて上洛した際，斎藤義龍が美濃衆の刺客に後をつけさせた時も，看破して未然に防ぐなど，_近江金ヶ森以来の山家衆が忍者の役割をして，信長を助け，戦においても常に，信長に近侍，
桶狭間の戦・1560＝36歳：_桶狭間の戦で，今川家が滅亡して，徳川家康が信長と和を結び，
川中島の戦終1564＝40歳：_お福との間に，嫡男長則が誕生した年，家康の足下で，三河一向一揆が起ると，信長の内命で，
将軍義輝自刃1565＝41歳：_配下の山家衆を動員して情報戦に持ち込み，鎮圧に至らせて，家康に恩を売るとともに，
岐阜楽市楽座1567＝43歳：信長が，稲葉山城の斎藤龍興を敗走させて，岐阜城と改名する_美濃攻略に従って功があり，赤母衣衆として抜擢されるに至るも，以後ますます，臆病にみられるほど，目立つ立場を避け，
織田信長入京1568＝44歳：信長が，足利義昭を奉じて上洛するが，抵抗する武将らは多く，信長は四面楚歌状態で，
京都宣教許可1569＝45歳：
石山合戦始・1570＝46歳：徳川家康の支援を得た織田軍と，近江国の浅井長政と朝倉家の連合軍が激突した*姉川の戦いで，緒戦に退却を決意した信長の影武者になって危急を救い，その後の勝利に導いたことから，一躍知られるようになる。信長の命で，摂津で転戦し，尾張の一向一揆鎮圧や比叡山焼き討ちに従軍し，千種峠の狙撃犯を逃がしてやっていたことが判明して，信長の機嫌を損ね，犯人を鋸で挽き殺す残虐な刑に立ち会わされるなどして，ついて行けず，近侍をやめて，武将になる道を選び，兄政近とその一族を呼び，実子であることを伏せて，長屋喜蔵を養子に迎えて金森可重とし，山家衆トップに根尾弥兵衛を据えるなど，体制を一新，
室町幕府滅亡1573＝49歳：一乗谷の戦後，朝倉家の優れた城下町の経営ぶりを確かめ，義景最後の地越前大野にも足を延ばす。
長篠の戦・・1575＝51歳：_長篠の戦いでは，徳川家康の部将酒井忠次の配下という形で，織田軍を率いて，勝利に貢献，戦後，信長から(丹羽長秀にしか与えられていない)"長"の字を賜り，長近名乗るようになった上，家康からも，その功と才を，高く評価されて，名将の仲間入り，一向一揆にてこずる越前攻めに，柴田勝家総指揮のもと，その重要な一翼を担い，わずかな期間で平定して，その戦功で，越前国大野郡の過半を与えられ，
安土城築城・1576＝52歳：上杉謙信と戦うべく，_北陸方面軍を統轄する勝家の寄騎(与力)を務めながら，築城，城下町整備に着手，
安土楽市楽座1577＝53歳：手取川での敗戦の責を担わされて，荒木村重成敗奉行として，一族の惨殺に立ち会うのに何とか耐え，
上杉謙信没・1578＝54歳：上杉謙信も死去して，_平穏の時代が近づいたと思ううち，
安土教会許可1579＝55歳：まさに安土城・下と並行するように，大野城と，のちにつながる優れた城下町が完成。自らは，安土住まいを求められたため，兄政近らを介して，地場産業育成のため，鉱山開発と能面づくりなどを進め，
本能寺の変・1582＝58歳：可重に，郡上八幡城主遠藤慶隆の娘を迎えて，三国同盟が成立し，正四位下兵部卿にまで昇ったところに，*本能寺の変が起こり，信長ばかりか，織田信忠と共に，嫡男長則が二条城にて討死，衝撃を受けて意気消沈，剃髪して素玄と号し，以後，法印と呼ばれるようになる。
賤ヶ岳の戦・1583＝59歳：_賤ヶ岳の戦いにおいて，勝家側にありながら，前田利家と共に，出陣せず，秀吉の傘下に入り，大坂城築城奉行に命じられ，可重とともに，大坂詰めになって，
長久手の戦・1584＝60歳：可重の長男重近が誕生。_家康に秀吉が敗れた小牧・長久手の戦いには出陣しないで済むが，
豊臣秀吉関白1585＝61歳：_秀吉が編成した越中の佐々成政討伐軍に従軍するうち，飛騨の(姉小路)三木自綱討伐の大将に命じられ，三木氏に領土を奪われた勢力を結集するなどして，降伏させる。戦功により，飛騨一国を与えられ，短期間で統一を成し遂げ，あとは，可重に任せて，大野に戻ると，飛騨白川を震源に，越前大野までも激動させた天正の大地震が発生するも，可重と共に的確に対処して人心掌握，
秀吉太政大臣1586＝62歳：領地を奪われた旧領主らが，反金森の一揆を煽動するなか，*広大ながらも耕作に適さない飛騨に転封されるも，めげずに，かつて暮らした野洲の高山砦に似た地を見出し，とりあえず鍋山仮城館を建設して，越前大野から家臣団を移住させ，城下町整備も開始するとともに，飛騨高山と命名，
ﾊﾞﾃﾚﾝ追放令 1587＝63歳：野洲が，真宗の寺内町であった関係か，この頃には，願寺教如と昵懇の間柄になっている。_秀吉から，可重ともども，九州征伐に駆り出され，秀吉と同じ申年生まれでもあったことから，大坂に戻った秀吉の御伽衆となり，茶の湯に造詣が深く，千利休の弟子でもあったことから，秀吉が権勢を示すべく開いた北野大茶会での会場警備を命じられるなど多忙を極める間も，着々と進められ，
刀狩海賊取締1588＝64歳：_町人らの居住・開発も認めると，一向宗の力を逆利用すべく，白川郷の照蓮寺を誘致するとともに，それまで関わった様々な人たちを供養すべく，京都の東山に倣う寺院町づくりをも企図，自ら関係してきた京都の文化も入って，のちに小京都と呼ばれる街並みの基礎がつくられ，
・・・・・・1589＝65歳：目鼻がつくと，_本格的な高山城建設に着手するとともに，可重には，北の古川築城に取組ませる一方，
秀吉全国統一1590＝66歳：小田原攻めにも，可重ともども，動員され，
士農工商公布1591＝67歳：秀吉を抑えて衆望を集めていた弟の豊臣秀長が死去して，歯止めがなくなった秀吉が，千利休に切腹を命じた際，嫡男の千道安を高山に匿い，茶の手ほどきを受けた金森重近は，のち，宗和流を開くことになる。
文禄の役・・1592＝70歳：文禄の役には，可重と共に出陣するが，名護屋で，朝鮮からの報告を秀吉に伝える役を務め，
方広寺大仏殿1593＝71歳：秀吉が，待望の子秀頼を得，京に戻ると，真っ先に誕生祝を届けるなど，_秀吉との関係には抜かりなく，
ﾙｿﾝ島通交・ 1594＝72歳：秀吉が，有馬温泉にて湯治を行なった際に，背負って入湯したというほど，関係も良好，かつ，剛健で，秀吉が隠居地にした伏見城下に屋敷を構えて駐在，_自ら同様，広大ながら未開の地・関東に転封された徳川家康と会うたびに，肝胆相照らす仲になって行き，
26聖人殉教・1596＝74歳：可重の三男で，のちに3代藩主となる重頼が誕生。
慶長の役・・1597＝75歳：慶長の役にも参謀長のような役割をするうち，
豊臣秀吉没・1598＝76歳：_秀吉が死去すると，家康の覇権を信じ，また，信じられて，その警護に当たり，
関ヶ原の戦・1600＝78歳：_関ヶ原の戦いでは，可重とともに，東軍にあって勝利に貢献，戦後，家康と岐阜城天守閣に登って，信長以来の思い出話をし，家康が人質になっていた竹千代時代に，長近から丁重に扱われたことを，他の諸将が知ることになった。論功行賞を固辞するも，家康から，美濃の上有知ほかを与えられ，さらに，美濃郡上八幡城攻めでの貢献で，倍に加増される。この間，本願寺教如を家康に紹介し，
東本願寺創建1602＝80歳：_家康が，東本願寺を建立することを認めて，東西に分裂すると，高山にも，東本願寺別院を誘致。
歌舞伎始・・1603＝81歳：_徳川幕府が開かれるとともに，初代高山藩主となり，
徳川家康隠居1605＝83歳：_高山城が完成すると，飛騨の采配は，可重に任せ，自身は加増された上有知の鉈尾山城から，新たに小倉山城を築いて移るとともに城下町を整備，高山同様，重要伝統的建造物群保存地区となっている。家康から贈られた側室九里姫(久昌院)に，この年，三男の五郎八(長光)が誕生するほど，精力絶倫であったが，
・・・・・・1608＝86歳：京都伏見で，_没した。

桐谷忠夫「不殺の軍扇 金森長近」，Wikipedia，